

あ い さ つ

京都府高等学校体育連盟

会 長 角 井 弘 之

(京都府立東稜高等学校長)

平成 30 年度京都府高等学校体育連盟「高体連誌第 58 号」の発刊にあたり、ごあいさつ申し上げます。

今年度も、加盟校・各専門部の皆様、並びに各競技団体、関係諸機関のご支援、ご協力を賜り、本連盟の各種事業を無事に終えることができましたこと、誌面をおかりし、心から厚くお礼申し上げます。特に、京都府開催となりました「第 54 回近畿高等学校定時制・通信制課程体育大会」につきましては、定時制・通信制専門部のみならず、全日制専門部、関係競技団体等の多大なご協力をいただき、全 9 競技を実施、近畿の定通制生徒の素晴らしい交流の機会となりました。改めましてお礼と感謝を申し上げます。

今年も、京都府選手団は、三重県を中心（東海ブロック）に開催された全国高等学校総合体育大会をはじめ、全国高等学校定時制通信制体育大会、その他の体育大会において、団体種目では朱雀高校通信制卓球部女子団体優勝を含め、入賞数が 27、個人種目でも陸上競技、水泳、柔道、レスリング、自転車競技、ウエイトリフティング女子競技における 15 の優勝を含め、入賞数が 79 となるなど、大いに活躍してくれました。また、全国都道府県対抗女子駅伝競走大会でも高校生が活躍し、見事に 2 年連続で 2 位となり、都大路を沸かせてくれました。

さて、2020 年東京オリンピック・パラリンピック開催を来年に控え、日本中でスポーツ熱が高まりをみせる中、一方で、スポーツを取り巻く組織や指導者に対するスポーツ・インテグリティ（高潔性）の確保が課題視されています。言うまでもなく、全ての運動部活動顧問（指導者）は「高校生がスポーツマンシップとフェアプレイの精神をもって競技し、それらを通じて健全な人間育成を図る」ことを目的として指導し、そのための自己研鑽、資質の向上に常に努めなければなりません。また、本連盟には、加盟校、各競技専門部や各顧問を支える組織として、これまで以上の健全性と指導者に対する教育・研修の強化が求められており、引き続き、子どもたちがかけがえのないスポーツ体験を通じて、素晴らしい人間力を身に付けることができるよう、関係者一同、力を合わせて取り組んでまいりたい所存です。

結びにあたりまして、関係の皆様方には、今後とも本連盟への暖かい御支援、御協力をいただきますようお願い申し上げます。発刊のごあいさつとさせていただきます。